



Flash News

三重大学

第68号

目次

- 豊田学長最終講演会
- 新「勢水丸」竣工式
- 三重県との「新県立博物館」にかかる連携に関する協力協定締結
- 第12回環境コミュニケーション大賞「環境配慮促進法特定事業者賞」を受賞
- 協定大学出身の留学生を対象とした優遇制度
- 「フィールドサーバ」を活用した学校間交流
- 「第3回フォーラムin一身田」を開催
- 産学官連携フォーラム2009「新世代全固体ポリマーリチウム二次電池の開発と高度部材イノベーションへの展開」を開催
- 「鈴鹿工業高等専門学校・鳥羽商船高等専門学校との交流プログラム」を開催
- 三重大学で行われたオーストラリア Coogee Public SchoolとのTV会議
- 第2回市民公開講座「知ってほしい女性のがん」を開催
- 「鈴鹿医療科学大学との合同公開講演会」を開催

豊田学長最終講演会「私のPDCA自己申告書～学長としたやったこと、やらなかったこと～」



3月19日、標記最終講演会が医学部臨床第3講義室で行われました。「運営から経営へ」「学生の潜在力を引き出そう」「文字通り地域に根ざす大学へ」「学長自らの戦いと情報発信」「やり残したこと」という5つのテーマについて、法人化後の5年間に三重大学が実施した教育・研究・運営についての数多くの新しい取り組みと、学長自身が地方大学予算の半減という国の試算や大学病院の急激な交付金削減に対して、先頭に立って戦ったことや、ブログなどを通してのトップ自らの情報発信の重要性について話されました。そして、学生・職員・教員が共感・共鳴して心を一つにして改善・改革に取り組む大学づくりをしようと訴えました。

新「勢水丸」竣工式

3月7日、松阪港で、生物資源学研究科の練習船、新「勢水丸」の完成記念式典が行われました。豊田長康学長による挨拶の後、文部科学省の藤原章夫高等教育局専門教育課長、江畑賢治三重県副知事から祝辞が述べられ、新「勢水丸」に対して大きな期待が寄せられました。式典には国会議員や大学関係者ら約100人が出席し、テープカットの後、出席者は順に船内を見学しました。また、式典後には、松阪フレックスホテルで祝賀会が開かれ、新「勢水丸」の完成を盛大に祝いました。



(写真右から 豊田長康学長、江畑賢治三重県副知事、坂口 力衆議院議員、文部科学省藤原章夫高等教育局専門教育課長、川崎二郎衆議院議員、田村憲久衆議院議員(代理)、坂田中晶善生物資源学研究科長)

三重県との「新県立博物館」にかかる連携に関する協力協定締結



三重大学と三重県は、「新県立博物館基本計画」の実現を通じての三重県の文化振興に向けて、連携協力することとし、3月16日に豊田長康学長・野呂明彦知事による協定の調印が行われました。この協定は、「基本計画」における重要なパートナーとして、相互に連携協力することなどの5項目からなり、今後、新県立博物館開館までに、より具体的な連携についての相互協力協定締結を目指していきます。本学では連携協力・連携調整の窓口として、2月26日に博学連携推進室(室長：菅原洋一教授)を発足し、博物館との連携ネットワークづくりに取り組んでいきます。

第12回環境コミュニケーション大賞「環境配慮促進法特定事業者賞」を受賞

3月16日、本学が作成した「環境報告書2008」が、環境省と(財)地球・人間環境フォーラム主催の標記大賞を受賞しました。これは、事業者等の環境コミュニケーションへの取り組みを促進するとともに、その質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。2005年4月に環境配慮促進法が施行されたことを受け、特定事業者(国立大学法人等)が作成したすぐれた環境報告書を表彰する「環境配慮促進法特定事業者賞」が新たに設けられ、本学の環境マネジメントシステムの構築など、学内全体で取り組んだ成果が高く評価されました。また、東京虎ノ門ニッショウホールにおいて、表彰式が開催され、斉藤環境大臣出席のもと、朴学長補佐(環境ISO担当)が表彰状を受領しました。



協定大学出身の留学生を対象とした優遇制度

21年4月から、標記優遇制度が開始されます。これは、本学大学院研究科博士課程等に入学する私費外国人留学生で、本学と大学間あるいは部局等間協定をしている協定大学出身の者を対象とする制度です。その中で、学業成績および研究業績が特に優秀と認められる者に対して入学料および授業料の全額相当額を不徴収とすることで、優秀な留学生を安定的に確保し、協定大学との学生・教員間の研究交流が促進され、結果的に本学大学院全体の教育・研究活動の活性化と国際競争力の強化を図ることを目指すものです。

「フィールドサーバ」を活用した学校間交流

本学が文部科学省に採択された国際教育推進プランの活動の一環として、生物資源学研究科と津市教育委員会が連携し、標記学校間交流が始まりました。4小学校（安東小、北立誠小、栗真小、西が丘小）同時に栽培を始めたほうれん草の成長の様子や気温などをカメラとセンサを備えた「フィールドサーバ」で観測し、インターネットを介して他校と比較します。2月10日に安東小学校でジャパン・アグロノミストの藤原隆広社長による特別授業があり、続いて伊藤良栄助教授の指導のもと、観察実習を行いました。子どもたちは、ヒマラヤ氷河湖の様子が紹介されると「自分でも見てみたい。」と楽しそうな声をあげ、大好評でした。

「第3回フォーラムin一身田」を開催

2月23日、講堂において、現代GPの3年間の取組を総括する標記フォーラムを開催しました。この取組は、一身田校区の5学校園の教育活動を教育学部教員および学生が支援し、学生の教育実践力の育成をはかろうとするものです。フォーラムでは、144名の参加者のもと、学生によるポスターセッションと体験発表、取組の成果と課題を明らかにするパネル・ディスカッションが行われました。引き続き、NHK解説委員の早川信夫氏による記念講演が行われ、一身田校区での取組が全国的にも稀な優れたものであるとの評価をいただきました。



産学官連携フォーラム2009「新世代全固体ポリマーリチウム二次電池の開発と高度部材イノベーションへの展開」を開催

三重県、地域の企業、三重大学等の連携で進めている文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」の成果発表として、3月9日、標記フォーラムを開催し、基調講演「地域科学技術振興施策について」（柳 学術戦略官・文部科学省）と、工学研究科武田教授等による、ポリマーリチウム二次電池の開発状況についての発表が行われました。また、ポリマー電池の大きな用途となりうる「プリンタブル・エレクトロニクス」について、産総研の鎌田氏、凸版(株)の渡辺氏による特別講演が行われました。当日は、約150名が参加し、熱心に聞き入っていました。

「鈴鹿工業高等専門学校・鳥羽商船高等専門学校との交流プログラム」を開催

3月10日、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」の活動の一環として、標記交流プログラムを開催しました。当日は学生約60名が参加し、女性研究者支援室室長の小川眞里子人文学部教授によるミニ講義やパールリーダーと呼ばれる理系女子大学院生の体験談に熱心に聴き入っていました。その後、工学研究科、生物資源学研究科の12の研究室にわかれて、ロボット、電子、バイオ、海洋観測など最新研究の一端に触れ、実験を体験しました。

三重大学で行われたオーストラリア Coogee Public School とのTV会議

3月2日、教育学部の遠隔授業室にて、日本とオーストラリアの小学生によるTV会議が行われました。津市立北立誠小学校5年生37名とオーストラリアのCoogee Public Schoolの5年生16名、4年生2名が、お互いの自己紹介や学校紹介、日本側からオーストラリアの人口や移民に関する質問を一枚のケント紙を使い、本学学生と事前学習した英語や絵で伝えたいことを表現しました。当日は、社会科学や英語科の学生のサポートを受け、練習した英語で自分の言葉が通じたときの嬉しそうな表情が実に印象的で、とても有意義なイベントとなりました。



第2回市民公開講座「知ってほしい女性のがん」を開催

2月28日、津リージョンプラザのお城ホールにて、医学部附属病院がんセンター主催の標記公開講座を開催しました。講座では、小川朋子乳腺センター長による「乳がんの診断と治療」、画像診断科の竹田寛副病院長による「マンモグラフィ乳がん検診と三重乳がん検診ネットワーク」、産科婦人科の田畑務准教授による「子宮頸がんについて」の講演を行いました。また、「女性のがんについて考える」と題したパネルディスカッションを行い、当日は600名が参加し、熱心に聴き入っていました。

「鈴鹿医療科学大学との合同公開講演会」を開催

3月3日、ホテルグリーンパーク津において、「どう選ぶ？新時代の生活習慣病治療」と題した標記合同講演会を開催しました。このセミナーは鈴鹿医療科学大学と三重大学の包括連携に基づく取り組みで、本年度で2回目の開催です。当日は、市民や地域医療関係者、大学関係者など多くの人々が参加しました。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

小林英雄 (kobayashi@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に出向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

